

# 哲學研究

第三十九卷 第八册

第四百五十四號

昭和三十三年三月二十日發行

室町時代初期に於ける  
畫僧如拙の存在意義  
……………蓮實重康

リルケに於ける限界没却の理想  
……………三浦友幸  
ナ

ヘーゲルに於ける行爲の構造  
——特に悲劇に關連して——  
……………中棗肇

新刊紹介 G・マランテック「S・キヤケゴアの著作入門」  
「S・キヤケゴアの教育攻撃」……………大谷長

彙報

京都大學文學部内  
京都哲學會

## 京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
- (一) 毎月一回研究会を開く
- (二) 毎年公開講演會を開く
- (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委囑する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二三〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

## 京都哲學會役員

### 委員

本	武	松	蓮	野	西	長	田	武	高	園	島	重	酒	柿	白	上	井	石	池	有
吉	藤	尾	實	田	谷	尾	中	内	田	原	澤	芳	俊	井	崎	野	島	田	田	賀
良	一	義	重	又	啓	雅	美	義	三	太	夫	修	祐	二	照	尙	勉	仁	義	太
治	雄	海	康	夫	治	人	太	範	郎	郎	夫	郎	修	一	尙	夫	勉	仁	義	太

(Aschmet, III, S. 538) かくいこの人倫的實體の本質に對する認識に於て、人倫的世界(存在)と人倫的行爲とが統一されたのである。このような存在(an sich)↓行爲(für sich)↓認識(an und für sich)というプロセスこそ正に行爲のダイアレクティクと呼ばれるべきものであらう。

(了)

(筆者 大阪學藝大學「哲學」講師)

前	號	目	次
		時間の「方向」……………	マックス・ブラック
		講集團の社會的性格……………	池田義祐
		西洋哲學と印度思想(完)……………	スワミ・アゲーハー ナンダ・バラテイ
		——一つの比較的研究——	
		米國の哲學と哲學教育……………	フレデリック・P・ハリス
		マックス・ブラック教授の講義をきいて——アメリカ研究夏期セミナー……………	森田良紀
		新著外國雜誌所載論文一覽	

次	號	論	文	豫	告
		人間存在と超越……………		三宅剛一	
		シェリング神學思想の父祖たち……………		エルンスト・ベント	
		ヘーゲルの人間學の性格……………		船山信一	
		——體系におけるその地位——			
		ブルーノの死……………		清水純一	

ヘーゲルに於ける行爲の構造

## 會 告

- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望者は東京都千代田區神田駿河臺四ノ四弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費年（一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい
- 「振替口座東京五三九〇九 弘文堂」
- 一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちにお拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年毎）に精算します。
- 一、會員の轉居入退會等（編集事務以外は一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい
- 一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛に御送り下さい

## 京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田  
京都大學文學部内

昭和三十三年三月十五日 印刷  
昭和三十三年三月二十日 發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内

編 輯 代 表

酒 井 修

東 京 都 千 代 田 區 神 田 駿 河 臺 四 ノ 四

發 行 人 八 坂 太 郎

印 刷 人 草 刈 親 雄

印 刷 所 中 央 製 本 印 刷 株 式 會 社

東 京 都 新 宿 區 市 ヶ 谷 臺 町 一

發 行 所 株 式 會 社 弘 文 堂

東 京 都 千 代 田 區 神 田 駿 河 臺 四 ノ 四

## 註 文 規 定

- 一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい
- 一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價一〇〇圓・郵税八圓）を前金にてお送り下さい
- 一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和三十三年三月二十五日  
發行  
每月一  
行

THE JOURNAL  
OF  
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

---

---

Vol. XXXIX

March, 1958

No. 8

---

---

*Die Stellung von Josetsu*

*in der japanischen Tuschkmalerei-Geschichte*.....Shigeyasu Hasumi

*Das Ideal der Entgrenzung bei Rilke*.....Anna Miura

*Das Tragische der Handlung bei Hegel*.....Hazimu Nakano

---

*Book Review :*

G. Malantschuk, "Indførelse i Søren Kierkegaards

Forfatterskab" and "Søren Kierkegaards Angreb

paa Kirken" .....Masaru Otani

Published Monthly

By

**THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY**

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

特  
價  
金  
一  
三  
〇  
圓

IBM6472